

ショウガの病害虫防除対策について

病害

特に重要な病害は、**根茎腐敗病**です。

(その他、紋枯病、白星病、軟腐病などが発生することがあります)

根茎腐敗病は前作の罹病した残渣が越冬して土壌伝染する他、感染した種ショウガを圃場に植え付けることで発生します。

雨で圃場が浸冠水した場合に多発生し、感染株が拡大します。

<防除対策>

- ①感染していない健全な種ショウガの使用
- ②発病圃場の土壌消毒
- ③圃場排水性の改善や高畦栽培
- ④発病株の早期発見・早めの除去
- ⑤生育中の有効薬剤の予防散布や発病初期



根茎腐敗病の病徴

の防除徹底

薬剤散布は表1、2を参考に、梅雨期は特に防除を徹底してください。

虫害

アワノメイガ、ハスモンヨトウ

アワノメイガ:

幼虫は6月頃より発生し、茎内に食入し茎の穴から鋸くず状の虫糞を出すのが特徴です。萎れや芯枯れを生じ、多発すると株が枯死します。

被害は7月後半頃から目立ってきます。

ハスモンヨトウ:

8月後半頃より発生し、高温少雨の年に多発生する傾向があります。

早期発見と防除の励行が重要です(表3参照)。

表1 ショウガ根茎腐敗病の主な防除薬剤

(令和7年6月20日現在)

薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
オラクル顆粒水和剤	2,000倍 (1~3ℓ/m ² 土壌灌注)	生育期 但し収穫3日前まで / 3回以内	21
	または3,000倍 (3ℓ/m ² 土壌灌注)		
ユニフォーム粒剤	18kg/10a (生育期土壌表面散布 または定植前作条土壌混和)	収穫30日前まで / 3回以内	11と4
ランマンフロアブル	500~1,000倍 (2~3ℓ/m ² 土壌灌注)	生育期 但し収穫30日前まで / 3回以内	21
	または500倍 (1~3ℓ/m ² 土壌灌注)		
オーソサイド水和剤80	400倍 (3ℓ/m ² 灌注)	収穫30日前まで / 2回以内	M04

注) 表1および2の分類欄にはFRAC、表3にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ショウガ紋枯病、白星病、軟腐病の主な防除薬剤

(令和7年6月20日現在)

薬剤名	対象病害			希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	紋枯病	白星病	軟腐病			
Zボルドー			○※	500~1,000倍	- / -	M01
トリフミン水和剤		○		1,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3
オーソサイド水和剤80		○		600倍	収穫3日前まで / 2回以内	M04
モンカットフロアブル40	○			2,000倍	収穫3日前まで / 6回以内	7
ダコニール1000	○	○		1,000倍	収穫14日前まで / 5回以内	M05
バリダシン液剤5	○			800倍	収穫14日前まで / 4回以内	U18

※: 野菜類での登録

表3 ショウガのアワノメイガ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤

(令和7年6月20日現在)

薬剤名	対象害虫		希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	アワノメイガ	ハスモンヨトウ			
アクセルフロアブル	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
コテツフロアブル		○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	13
スカウトフロアブル	○		1,500倍	収穫前日まで / 5回以内	3A
デミリン水和剤	○		1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	15
プレオフロアブル		○	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	UN
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	28
ロムダンフロアブル		○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	18
トルネードエースDF	○	○	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	22A
パダンSG水溶剤	○		1,500倍	収穫7日前まで / 5回以内	14

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。

■ 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。